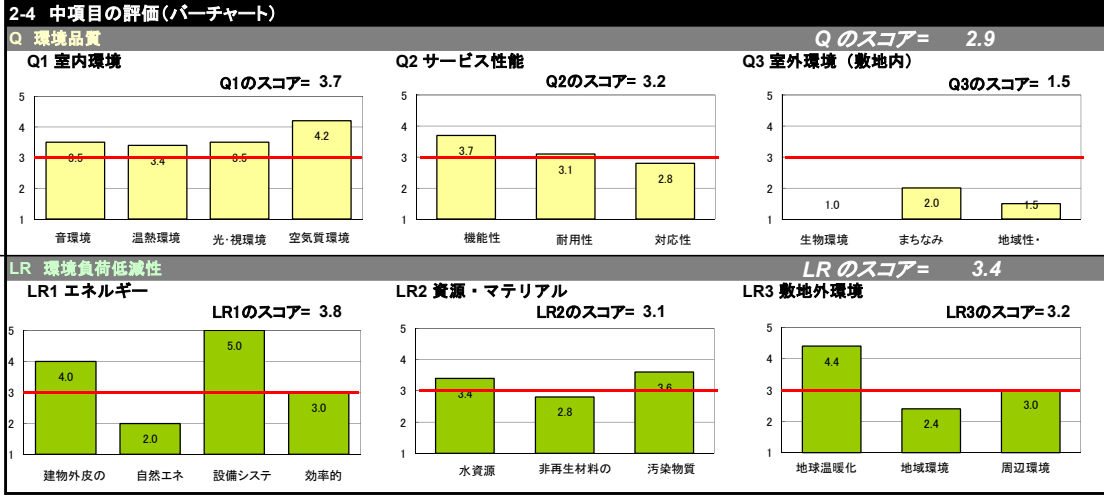
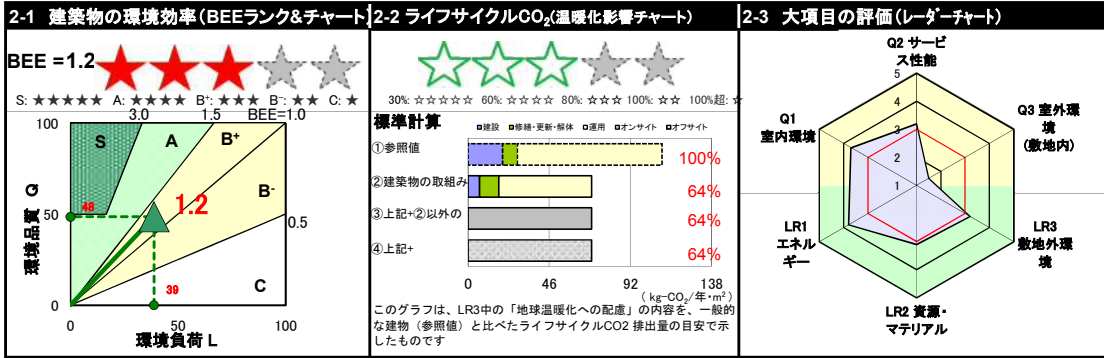


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)豊川市幸町 新築工事	階数	地上15階
建設地	愛知県豊川市幸町 16,17,18,19,24	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	300 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年7月 予定	評価の実施日	2018年8月31日
敷地面積	1,853 m ²	作成者	IAO竹田設計
建築面積	739 m ²	確認日	2018年8月31日
延床面積	6,683 m ²	確認者	IAO竹田設計



3 重点項目	
<p>① 地球温暖化への配慮</p> <p>4.4</p>	<p>③ 敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>16.3 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>② 資源の有効活用</p> <p>2.8</p>	<p>④ 地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

① 地球温暖化への配慮
LR-3.1 地球温暖化への配慮

② 資源の有効活用
Q-2.2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性
LR-2.2 非再生性資源の使用量削減

③ 敷地内の緑化
Q-3.1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

3 対応性・更新性				2.8	0.29	2.8	2.8	1.00	2.8
3.1	空間のゆとり			-	-	2.6	2.6	0.50	
1	1 階高のゆとり			-	-		3.0	0.60	
2	2 空間の形状・自由さ			-	-		2.0	0.40	
3.2	荷重のゆとり			-	-		3.0	0.50	
3.3	設備の更新性			2.8	1.00			-	
1	1 空調配管の更新性	②		2.0	0.17			-	
2	2 給排水管の更新性			3.0	0.17			-	
3	3 電気配線の更新性			3.0	0.11			-	
4	4 通信配線の更新性			3.0	0.11			-	
5	5 設備機器の更新性			3.0	0.22			-	
6	6 バックアップスペースの確保			3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	-	1.5
1	1 生物環境の保全と創出	独自③		1.0	0.30			-	1.0
2	2 まちなみ・景観への配慮	独自④		2.0	0.40			-	2.0
3	3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30			-	1.5
3.1	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		1.0	0.50			-	
3.2	3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.4
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	3.8
1	1 建物外皮の熱負荷抑制		日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を満	4.0	0.33			-	4.0
2	2 自然エネルギー利用			2.0	0.17			-	2.0
3	3 設備システムの高効率化		BEI=0.74としている。	5.0	0.33			-	5.0
4	4 効率的運用			3.0	0.17			-	3.0
	集合住宅以外の評価			-	-			-	-
4.1	4.1 モニタリング			-	-			-	-
4.2	4.2 運用管理体制			-	-			-	-
	集合住宅の評価			3.0	1.00			-	-
4.1	4.1 モニタリング			3.0	0.50			-	-
4.2	4.2 運用管理体制			3.0	0.50			-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	3.1
1	1 水資源保護			3.4	0.15			-	3.4
1.1	1.1 節水		節水型便器を採用している。	4.0	0.40			-	
1.2	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			-	
1	1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00			-	
2	2 雑排水等利用システム導入の有無			-	-			-	
2	2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.63			-	2.8
2.1	2.1 材料使用量の削減			3.0	0.07			-	
2.2	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25			-	
2.3	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-	3.0	0.21			-	
2.4	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.21			-	
2.5	2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-			-	
2.6	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。	4.0	0.25			-	
3	3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22			-	3.6
3.1	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32			-	
3.2	3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68			-	
1	1 消火剤			-	-			-	
2	2 発泡剤(断熱材等)		ノンフロン品を使用している。	5.0	0.50			-	
3	3 冷媒			3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	3.2
1	1 地球温暖化への配慮	①	地表面を積極的に緑化している。LCCO2排出率64%としている。	4.4	0.33			-	4.4
2	2 地域環境への配慮			2.4	0.33			-	2.4
2.1	2.1 大気汚染防止			-	-			-	
2.2	2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.67			-	
2.3	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.33			-	
1	1 雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25			-	
2	2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25			-	
3	3 交通負荷抑制	独自	敷地内にて車が停車するスペースを確保し交通状況に配慮してい	4.0	0.25			-	
4	4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25			-	
3	3 周辺環境への配慮			3.0	0.33			-	3.0
3.1	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			-	
1	1 騒音	独自		3.0	1.00			-	
2	2 振動	独自		-	-			-	
3	3 悪臭			-	-			-	
3.2	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40			-	
1	1 風害の抑制			3.0	0.70			-	
2	2 砂塵の抑制			-	-			-	
3	3 日照障害の抑制			3.0	0.30			-	
3.3	3.3 光害の抑制			3.0	0.20			-	
1	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70			-	
2	2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート
 (仮称)豊川市幸町 新築工事

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.4	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:16.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	豊川市のシンボルでもある豊川稲荷前に計画された総戸数75戸の共同住宅である。高い容積率を確保しながらも、周辺の街並みとの関係性を考慮し北側前面道路から距離を確保した配置計画とした。
Q1 室内環境	南側バルコニーには大きな開口部を設け、十分な採光・通風を確保している。また開口部は複層ガラスにより断熱性能を確保し、快適な住環境を確保している。
Q2 サービス性能	建物を長期利用できるように日本住宅性能表示基準「3-1劣化対策等級」における等級3を確保している。仕上げ材には、耐用年数が高いものを採用している。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内の可能な場所には積極的に緑地を設けることで、雨水が極力外部に流出しないよう配慮した。
LR1 エネルギー	ノンフロン断熱材を採用することで、環境に配慮しながらも断熱外皮性能は等級4を確保している。
LR2 資源・マテリアル	節水・節湯器具の採用により環境負荷低減に寄与する。
LR3 敷地外環境	全住戸に配置する給湯器をオール電化対応の設備機器とすることで、環境に配慮した設備計画としている。
その他	